

笑顔であいさつ ～あいさつは、心の架け橋～

子どもたちの登校の様子を見ていると、大きな声であいさつしてくれる子、マスクをしているのでわかりづらいですが、目元がにこっとしておそらく口元も微笑んでいるだろうなって思えるあいさつをしてくれる子、ぺこりとおじぎをしながら、「校長先生、おはようございます。」と、とつてもていねいにあいさつしてくれる子、その表情や言い方はさまざまです。

私は挨拶って人間関係を構築するのに最も大切なことじゃないのかなあと思っています。「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」その一言が関係性の潤滑油となるように思っています。

あ・・・明るく あたたかく
い・・・いつでも だれにでも
さ・・・（自分から）さきに
つ・・・（毎日）つづけて 次の言葉を

あいさつをする側ではなくて、あいさつをされる側で考えてみたらどんなことに気がつくでしょう。気持ちのいいあいさつをしてもらうととつてもいい気分になりはしませんか。それは、あいさつをしてくれた人が自分のことを大切に思っていてくれているんだなあと感じるからなのです。あいさつは相手の存在を認めている証なのです。「人にとって最もつらいことは、悪口を言われることではなく無視をされることだ」という言葉を聞いたことがあります。自分の存在を認めてもらえると人は安心するし、逆に自分の居場所がないものすごく不安になるものです。あいさつはまさに人を安心させる魔法の言葉なのです。

子どもたちはそんな奥深いことを考えずにあいさつをしているのだろうと思いますが、だからこそ小さいときからあいさつをする習慣をつけたいものです。

今年3月、卒業式を間近にひかえたある日、「卒業生が学童前の横断歩道のところで『1年間ありがとうございました』とあいさつをしてくれたんですよ。こんなあいさつしてくれたのは、はじめてです。うれしかったなあ。」と立哨して下さっているボランティアさんから教えていただきました。素敵な話ですね。子どもたちが主体的にあいさつをしてくれたことはたいへんすばらしいことですが、きっとその向こう側にご家庭や先生方からのご指導があったのかもしれませんが。意識すること、感謝の気持ちを持つことを形に表してくれたのです。気持ちを形に・・・気持ちを言葉で・・・大人である自分自身も行動で表しつつも子どもたちにきちんと伝えたいものです。ご家庭の方でも子どもたちに是非、魔法の言葉「あいさつ」を伝授してあげて下さい。よろしく願いいたします。

東日本大震災の時にACジャパンのCMが話題となりました。悲惨なニュースの合間に流れていた「ポポポーン」で思い出されるあのCMです。「震災の悲惨なニュースの合間にほっとできる瞬間でもある」、「このCMを見るたび震災を思い出してしまう」と賛否がわかれたCMです。今改めて見直してみると、♪あいさつするたびともだちふえるね♪ってすてきなことですよ。

[AC ジャパン CM あいさつの魔法 1分フルバージョン2010年度全国キャンペーン - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=EsRm78ZSOgc)

(あいさつ魔法 ACジャパンCMはこちらをクリック)